

お釈迦さまの教えの基礎となる大切な八正道のひとつに正語という教えがあります。正語とは、正しい言葉を語ることです。

正しい言葉を理解するためには、正しくない言葉を示す必要があります。では、仏教にとって正しくない言葉とは何でしょうか。

基本的なものが四つあります。

一つ目は、妄語（もうご）。嘘をつくこと。

二つ目は、両舌（りょうぜつ）。陰口・人の仲を裂く言葉。

三つ目は、悪口（あくぐち）。人を悩ませる荒々しい言葉。

四つ目は、綺語（きご）。口から出まかせのいい加減な言葉。

これら四つを使わないことを正語というのです。

そしてこの中で妄語が一番気をつけなければならないこととされています。つまり、「嘘をつくこと」です。

嘘をつくことはもちろん良いことではないと、みなさん重々承知していることでしょう。人を騙したり、自分に得になるように仕向ける、など・・・

しかし、「嘘も方便」という言葉があるじゃないか、と思うかもしれませんが、本来この言葉は、相手の理解を助けるためにする嘘を仏法に照らして方便として諭すことを意味します。

「人が生まれたときには、実に口の中には斧が生じている。愚かな者は悪口を言っ、その斧によって自分を切り裂くのである。」というお釈迦さまの教えがあります。この斧とは舌のことだといわれています。他人に言った悪口は、同時に自分を傷つけている、ということです。

さらにお釈迦さまは、「自分を苦しめず、また他人を害しないことばのみを語れ。これこそ実に善く説かれたことばである。」とお示しです。

今、世の中には言葉を使う手段が多く存在しており大変便利になっています。携帯電話などでの電子メールもその一つです。

先日、母から誕生日を祝うメールをもらいました。いくつになっても親は親・子は子です。ありがたく思い返信をした後に、すぐメールが返ってきました。そこには、「ごきげんよう」という言葉を久しぶりに聞き、^{うれ}嬉しくなって返信しました、とありました。返信メールの終わりに私が、「それではごきげんよう」と書いたことに感動したらしいのです。^{なにげ}何気なく使った言葉でしたが、今の時代あまり使う人がいなくなり、久しぶりに見て、昔を思い出して嬉しくなったそうです。

メールなどで気軽に言葉を使う機会が多くなってきた現代だからこそ、人を傷つけない^よ善い言葉を使い、語りたいものです。

それではごきげんよう。